

第五十一回連続講演会

伝統宗教と若者の懊悩

— 宗教はへいまの生きづらさにどう応えうるか —

① 10:20 ~ 10:30

挨拶

川中 仁 上智大学神学部教授 / 上智大学キリスト教文化研究所所長

② 10:30 ~ 11:30

「現代のカトリック教会に見る現象の一考察
— 世俗化と保守伝統への傾きに青年はどう向き合うか —」

酒井 陽介 上智大学神学部・大学院実践宗教学研究科准教授

③ 13:00 ~ 14:00

「『死にたい』という声に向き合って
— 伝統仏教教団と自死問題 —」

野呂 靖 龍谷大学心理学部准教授

④ 14:15 ~ 15:15

「現代社会における宗教の役割再考
— 途上国支援を通して見えた神のカタチ —」

長下部 穰 ワールド・ビジョン・ジャパン信仰と開発担当、
立教大学・東京基督教大学非常勤講師

⑤ 15:45 ~ 16:45

シンポジウム

モデレーター 北條 勝貴 上智大学文学部教授
/ 上智大学キリスト教文化研究所員



- 【開催方法】 会場（定員50名）+ オンライン（Zoom ウェビナー）
- 【会場】 上智大学中央図書館8階L-821会議室
- 【申し込み方法】 申込用URL：<https://forms.office.com/r/PDsgxqydSY>
受付期間：5/1（水）～ 5/31（金） ※受付期間外の申込不可
申込用URLまたはQRコードよりお申込みください。
電話での申込受付は一切行っておりません。
- 【聴講料】 一般 1,000円 / 学生 800円
※銀行振込みのみ。詳細はお申し込み後に、別途ご案内いたします。
※開催方法、問合せ受付時間に変更になる場合がございます。
※最新情報等は研究所HPにてお知らせいたします。
※パソコンの操作についての電話でのお問い合わせにはお答えできかねます。
何卒、ご了承ください。

2024年
6月 15日
(土)

お申込みフォーム



上智大学キリスト教文化研究所

<https://dept.sophia.ac.jp/is/icc/>

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

E-mail: kiriken-co@sophia.ac.jp

T E L : 03-3238-3540 (月～金 11:00～16:00)

第51回 連続講演会

伝統宗教と若者の懊悩

— 宗教は〈いま〉の生きづらさにどう応えるか —

講演会 趣旨

上智大学キリスト教文化研究所では、2023年度に連続講演会「現代社会の分断と宗教/カルト—大学生における〈生存〉の危機と救い」を開催し、大学生の抱えるいのちの危機をカルトが捕らえてゆく危うさに対し、宗教を建学の理念に持つ大学に何ができるのか、わたしたちは何をなすうるのかについて考えた。しかし、カルトの蔓延をもたらすのが現代社会の歪みならば、そして若者たちがカルトにすがりかれないのならば、それを怠慢のままに放置している伝統宗教にも大きな責任があろう。そもそも伝統宗教は、若者たちの懊悩に充分手を差し伸べることができているのだろうか。いまの若者たちの現実を、充分に受けとめられているのだろうか。

〈生きづらさ〉という言葉が、半ば流行語のように使われるようになって、どれくらいが経つだろう。2021年「現代用語の基礎知識」選「新語・流行語大賞」トップテンには、出自が未来を決めてしまうという「親ガチャ」が選ばれ、「生まれてこなければよかった」という反出生主義とともに、若者たちの冷めた諦観を浮き彫りにした。階級社会の分断と軋みは、もはや極相に達しようとしているのかもしれない。生まれ落ちてすぐに強いられる激しい競争のなか、個性や多様性の尊重が叫ばれつつ同調圧力が一層強まるなかで、みな息を殺して自分を守り、弱いものを見出しては気づかれぬよう踏みつけにしてゆく。平和を謳う国際社会が、理不尽な侵略戦争や大規模な虐殺を止める手段を持たないいま、誰が若者に理想や倫理、よりよい未来を示しうるのだろうか。

カトリック、プロテスタント、仏教といった伝統宗教の現場において、苦しみ喘ぐ若者たちの声を聞き、模索を続ける方々とともに、わたしたちの果たしうる責任について考えてゆきたい。